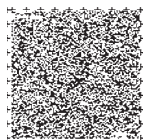
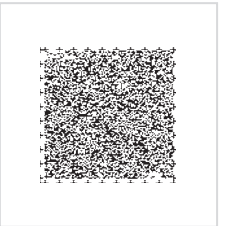


第2編 各論（計画の具体的な展開）

第 **1** 章 目標達成に向けた施策展開





1 重点政策テーマ

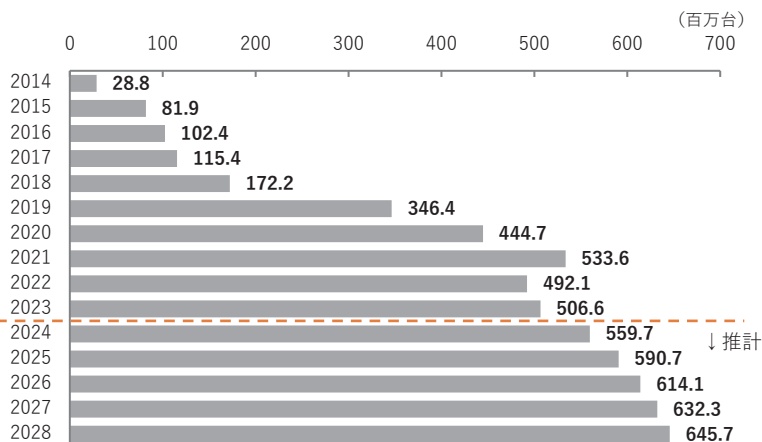
Project 0 スポーツの力を高める「スポーツDXプロジェクト」

現状と課題

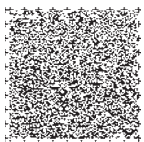
- ウェアラブル端末の世界出荷台数は、年々増加しており、令和5（2023）年には5億台を超え、今後も増加が見込まれている。スマートウォッチ等が身近なものとなっており、歩数計や心電計などの機能がユーザーの生体データの計測に活用されている。
- また、体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、分かったり」することがあると回答した児童の割合は約6割。
- さらに、「できたり、分かったり」することがあると回答した児童ほど、体育の授業を「楽しい」と感じている割合が高く、デジタル技術の活用が、運動の成功体験や楽しさの実感につながっている。
- こうしたデジタル技術は、データ分析・活用などを通じて、様々な施策の効果の向上や新たな価値を創造する可能性を秘めている。

ウェアラブル端末の世界出荷台数

世界におけるウェアラブル端末の出荷台数は増加

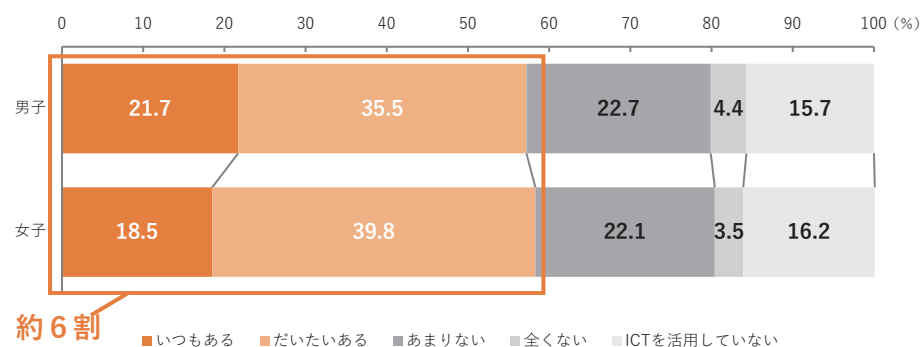


図表出典：International Data Corporation; Statistaウェブサイト
<https://www.statista.com/statistics/437871/wearables-worldwide-shipments/>
 (2024/12/24)



体育の授業でのICT活用

体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、分かったり」することがあると回答した小学生の割合は約6割



図表出典：「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」(2024年12月、スポーツ庁)を基に作成

将来の東京の姿

- デジタルの力で、誰もが自らに合ったスポーツを楽しんでいる東京を実現

2030年までの政策強化の方向性

各政策にデジタル技術を取り入れ、政策効果を飛躍的に発展



スポーツを通じた健康増進

- 都民の体力・体組成に関するデータ分析、健康に向けたアドバイスにより、スポーツ実施と健康増進を促進



アスリートの競技力向上

- デジタル技術の活用による競技力向上に向け、人材・団体を支援



誰もがスポーツと触れ合い、楽しむ機会の創出

- デジタル技術を活用し、障害の有無や年齢・性別、場所や距離を問わずスポーツを実施できる機会を提供
- eスポーツをきっかけに、スポーツへの関心喚起を図るとともに、「する」スポーツを推進



スポーツを通じた相互理解の促進

- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの東京開催を契機に、デジタルを活用したユニバーサルコミュニケーションの技術を社会へ浸透させ、相互理解を促進



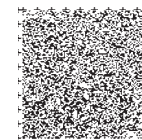
スポーツ施設の利便性を向上

- 都内スポーツ施設の検索や予約ページへの遷移等、利便性を向上



企業等との連携による新たな価値の創出

- パラスポーツの競技団体の基盤強化等に向け、団体のニーズと企業のノウハウ等をマッチングする仕組みを構築



1 重点政策テーマ

Project 0 スポーツの力を高める「スポーツDXプロジェクト」

今後の取組

スポーツを通じた健康増進

企業等と連携し、データ活用による健康増進等を促進



- 都内企業等と連携するとともに、区市町村の取組を後押しし、体力・体組成測定を実施
- 測定データに基づく運動アドバイスや、データを活用したプロモーション等により、継続的な運動実施に誘引

アスリートの競技力向上

競技力向上に向けた人材・団体への支援

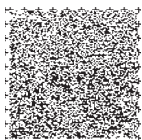


- データ分析・活用等によって選手の競技力向上を支援
- 競技団体等におけるデジタル化による事務効率化を支援し、競技力向上に向けた堅固な土台を確立

デジタル技術を活用した競技力向上

AIが競技力向上に活用される事例が広がっています。例えば、身体の複雑な動きを解析する技術をバスケットボールのフリースローで応用し、トップ選手の動きとの比較や、修正点の助言に活用されるなど、スポーツでのAIの活用が身近なものになってきています。

▼
コ
ラ
ム
C
O
L
U
M
N



誰もがスポーツと触れ合い、楽しむ機会の創出

高齢者

東京都シニア・コミュニティ交流大会にeスポーツ種目を追加

- 高齢者のフレイル予防等で広がりを見せつつあるeスポーツを大会の実施種目として追加



障害者

デジタル技術を活用し、障害のある人のスポーツ参加を促進

- 障害当事者同士の交流に加え、大規模イベント等への出展により、都民との交流を拡大



新たな技術に触れる機会の創出

イベント等でバーチャルスポーツに触れる機会を提供

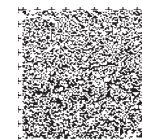
- 障害の有無や年齢・性別を問わず楽しめるバーチャルスポーツの体験機会を提供
- 東京2025世界陸上を契機として、好きな時間に、好きなコースをランニングし、全国どこからでも参加できるバーチャルランを実施



調査・検証

都のスポーツ振興におけるeスポーツの活用に関する調査・検証

- 課題等の調査・分析、大会の視察による事例収集、専門家等への意見聴取を実施
- トライアルとして、競技団体と連携したバーチャルスポーツ体験会等により効果を検証



1 重点政策テーマ

Project 0 スポーツの力を高める「スポーツDXプロジェクト」

今後の取組

スポーツを通じた相互理解の促進

ユニバーサルコミュニケーション 技術の社会実装を促進



- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催を契機とし、**国籍や障害にかかわらず、誰もが円滑にコミュニケーション**できるよう技術を活用
- **両大会における技術活用やショーケースング等を国内外へ広くPR**

スポーツ施設検索の利便性向上

スポーツ施設検索の利便性向上



東京のスポーツ案内サイト「SPOPITA」

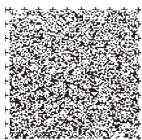
- **公民含めた3,000**を超える都内のスポーツ施設情報について、**検索や予約ページへの遷移等**、利用者の**利便性を向上**
- 民間企業等と連携し、スポーツ施設の情報を誰もが利用できる「**オープンデータ**」として公開し、データの利活用を促進

企業等との連携による新たな価値の創出

パラスポーツの競技団体等のニーズと企業のノウハウ等のマッチングを促進



- **企業のノウハウ等と競技団体等の課題やニーズをマッチングするプラットフォーム**により、競技団体等の基盤を強化するとともに企業のパラスポーツへの参画を促進



主な年次計画

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
スポーツを通じた健康増進	<ul style="list-style-type: none"> 都・区市町村イベントでの体力測定等の実施 体力データの活用検討 	<ul style="list-style-type: none"> 企業等での体力測定等の実施 体力データの活用検討 	<ul style="list-style-type: none"> 体力測定＆スポーツのサイクル創出を推進 	
競技団体等のデジタル化による事務効率化支援	<ul style="list-style-type: none"> 実施準備 	<ul style="list-style-type: none"> コンサル調査実施(アンケート・ヒアリング・伴走調査) 	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果の具体化検討 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルツールの導入開始
東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 大会実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施種目にeスポーツを追加 	<ul style="list-style-type: none"> 大会実施 	<ul style="list-style-type: none"> 大会実施
デジタル技術を活用した障害者のスポーツ参加促進事業	<ul style="list-style-type: none"> 実施準備 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・運動の機会提供 交流会等の実施 大規模展示会への出展 		<ul style="list-style-type: none"> eスポーツ分野におけるパラスポーツの取組の推進
都のスポーツ振興におけるeスポーツの活用に関する調査・検証(調査、体験会実施等)	<ul style="list-style-type: none"> 実施準備 	<ul style="list-style-type: none"> 事業開始 	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果を踏まえ、活用策を検討 	
ユニバーサルコミュニケーション技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> 都有施設等での活用 	<ul style="list-style-type: none"> 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックでの活用 都有施設等での活用 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツイベント等での活用を検討 	
スポーツ施設検索の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ案内サイトSPOPITAの運営・改善 			
企業と競技団体等のマッチングプラットフォーム構築	<ul style="list-style-type: none"> ピッチコンテスト実施 	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップとの連携によりプラットフォーム構築(試行) 	<ul style="list-style-type: none"> 事業効果の検証、プラットフォーム改善・運用 	



1 重点政策テーマ

Project 1 スポーツとともに育つ「チルドレン・スポーツ・プロジェクト」

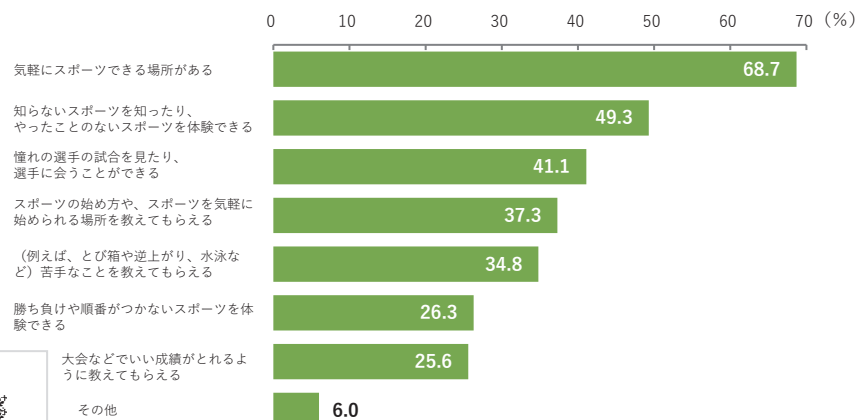
現状と課題

- 子供の体力・運動能力や運動実施時間はコロナ前の値には回復していない。また、学年が上がるにつれて、「スポーツをすることが好き」な子供の割合は減少している。
- 子供が今よりもスポーツが好きになるためには、「気軽にスポーツができる場所」(68.7%)や「知らないスポーツを知ったり、未経験のスポーツを体験できる機会」(49.3%)等が必要である。また、障害のある子供は、「ルールが簡単」(46.9%)「自分のペースに合わせてできる」(36.2%)スポーツへの参加を希望している。
- 幼児期の運動習慣とその後のスポーツ習慣には強い相関がある。また、保護者がスポーツに関する正しい知識を有している場合の方が、子供が運動好きである割合が高い。

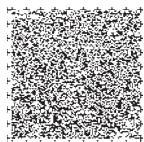
今よりスポーツが好きになれる機会や環境

スポーツ好きな子供を増やすには、スポーツをする場所や体験機会の創出・提供が必要

どのような機会や環境があると、今よりもスポーツが好きになると思うか



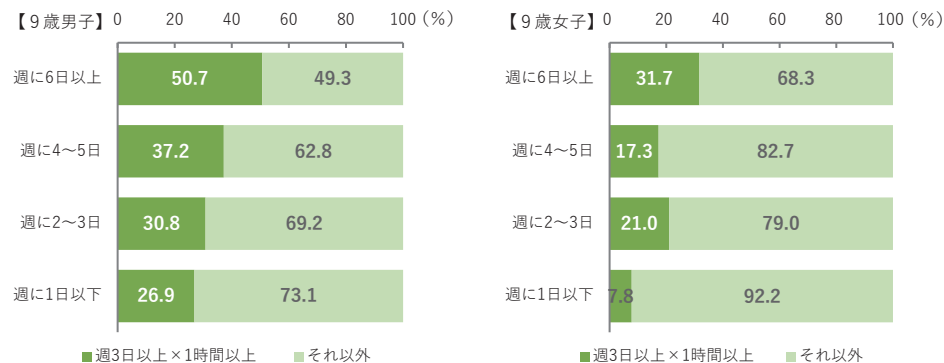
図表出典：「こども都庁モニター令和6年度第1回アンケート結果」(2024年8月、子供政策連携室)を基に作成



幼児期の運動習慣の形成

入学前の外遊び頻度が高い子供ほど、入学後の運動実施頻度が高い

「小学校入学前の外遊びの頻度」別にみた現在の運動・スポーツの実施状況



図表出典：「令和4年度体力・運動能力調査結果の概要」(2023年10月、スポーツ庁)を基に作成

将来の東京の姿

- 乳幼児期から様々な運動・スポーツに触れられる環境があり、**子供の頃から運動習慣が定着**
- スポーツへの多様な関わり方が広まることで、子供たちが**一人ひとりの好みや特性に合ったスポーツの楽しさや魅力を実感でき、スポーツ好きな子供であふれる社会が実現**

2030年までの政策強化の方向性

楽しさを積み重ね、「大人になってもスポーツ好き」な子供を育てる

乳幼児（保護者）

保護者の同伴が必須・主に遊びの中で体を動かす

小学生

徐々に自分の意志で行動

中学生・高校生

運動部活動への参加の有無や学業等の影響によりスポーツ実施頻度や関わり方に個人差

「スポーツ好き」を醸成

- 外遊びをはじめとして、幼児期からの**多様な運動遊びの機会を創出**
- 子供のスポーツ実施の重要性について**保護者等の正しい知識を涵養するとともに、行動変化を促進・支援**



個々の実態・多様なニーズへ対応

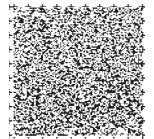
- 個々の好みや特性に合った**スポーツの楽しさ・魅力を十分に実感できるよう、スポーツへの多様な関わり方を普及**
- 高みを目指す子供には、**競技力の向上を支援**



スポーツに触れ、親しむ時間・機会の創出



- **スポーツ情報の効果的な発信や、身近でスポーツが実施できる環境の整備など、様々なシーンで子供たちがスポーツに触れ、親しむ時間・機会の創出**



1 重点政策テーマ

Project 1 スポーツとともに育つ「チルドレン・スポーツ・プロジェクト」

今後の取組

「スポーツ好き」を醸成

子供が様々な運動・スポーツに親しむ機会の創出



- 幼児期から、日常の活動シーンや一人ひとりの身体能力に合わせ、様々な運動・スポーツを知る・体験する・上達する（教わる）機会を提供
- 保育士や教員等の子供に接する機会の多い人を対象に、スポーツ・レクリエーション等の気軽に楽しめるスポーツのルールや楽しみ方等を周知・浸透

幼児期の外遊び習慣づくり



- 遊びとしての魅力を高める工夫と、運動習慣の定着を目的に、親子で一緒に楽しめる運動・スポーツの紹介や体験イベントを実施

保護者のフィジカルリテラシーの涵養



- 幼児期からの運動習慣を形成するため、「基礎的な運動神経等を養う遊び」や「運動がもたらす効果」等を、乳幼児の保護者が集まる場所などで、一体的に普及・啓発

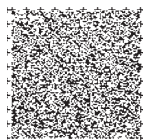
スポーツ・レクリエーション

スポーツ・レクリエーションとは、子供から大人まで、誰でも気軽に楽しめるスポーツのことで、スポーツへの参画のきっかけとなるものとして注目されています。都が子供を対象に行ったアンケート調査では、スポーツ・レクリエーションを「知らなかったが、やってみたい」と回答した子供は約5割であり、今後も体験機会を創出・提供し、広く普及させることが重要です。

調査結果は、以下の二次元コードからご覧いただけます。



▼
コラム
COLUMN



個々の実態・多様なニーズへの対応

苦手克服をサポートし、スポーツ離れを抑制

- **スポーツへの苦手意識を払拭し**、一つでも多くの「できた」経験（成功体験）の獲得を支援するなど、学齢の進行に伴う状況変化も捉えながら、**スポーツが好きになるきっかけを創出**



障害のある子供がスポーツに出会える・楽しめる機会を提供

- 都立特別支援学校を活用した体験教室における親子教室など、**障害種別に応じたきめ細かなプログラムの実施**
- 放課後等デイサービスへの指導者の派遣により**運動習慣の定着を図る取組を実施**



体験教室
(親子チャレンジ教室)

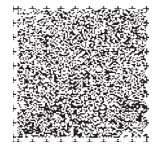
「楽しむスポーツ」の普及

- 技術の向上だけではない、「**楽しさ**」や「**気軽さ**」を主眼に置いたスポーツ・レクリエーション等の**スポーツ実施を支援**
- 区市町村が行う、**デジタル技術を活用したスポーツ**に関する取組を後押しするなど、**新しいスポーツの楽しみ方**の普及を促進



トップアスリート輩出を目指した競技力向上

- 新たな需要に対応しながら、関連団体等と連携し、これまで培ってきた選手の発掘・育成などの**ノウハウを最大限に活用し**、**ジュニア世代の競技力向上施策を効果的に展開**
- **国際的に活躍するアスリートの輩出**を目指し、ジュニア期から**他国の選手と交流し**、切磋琢磨する機会を提供
- **ジュニアパラアスリートの支援を強化**するため、医科学講習会の実施に係る支援メニューを追加



1 重点政策テーマ

Project 1 スポーツとともに育つ「チルドレン・スポーツ・プロジェクト」

今後の取組

スポーツに触れ、親しむ時間・機会の創出

気軽にできる効果的な運動の普及啓発



- 身体を動かすことの効果や、日常における各動作の運動強度（METs）等を見える化するとともに、勉強や習い事の合間など子供の余暇時間の中で気軽に取り組める運動等を周知

子供のニーズに対応した効果的な情報発信

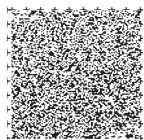


- 様々なスポーツのルール・魅力の紹介や、区市町村との連携によるスポーツの実施場所（スポーツ施設や公園・広場等）の効果的な発信など、子供たちがスポーツ情報にスムーズにアクセスできる機会を充実

継続的なスポーツ機会の創出・提供

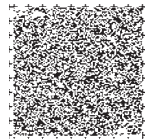


- デジタル技術等を活用し、これまではスポーツの場として使用されていない場所や空間を新たなスポーツの場として創出
- チームや学校等の所属にとらわれず、多様なスポーツを気軽に実施できる場所を増やすため、多様な主体と連携して切れ目のないスポーツ参加機会を提供



主な年次計画

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
子供が様々な運動・スポーツに親しむ機会の創出	● 実施準備	● 実施準備	● 事業開始	→
幼児期の外遊び習慣づくり	● 実施準備	● 実施準備	● 事業開始	→
保護者のフィジカルリテラシーの涵養	● 実施準備	● 子供のスポーツ実施に関する調査・研究	● 事業開始	→
苦手克服のサポート等、スポーツ離れを抑制	● 実施準備	● 子供のスポーツ実施に関する調査・研究	→	● 事業開始
障害児・者の運動習慣定着支援事業	● 施設内や身近なスポーツ施設等で運動プログラムを実施	● 事例集を通じて自治体へ取組を普及	→	→
「楽しむスポーツ」の普及	● 実施準備	● スポーツ・レクリエーション等の情報集約	● 事業開始	→
トップアスリート輩出を目指した競技力向上		発掘・育成		
➢ トップアスリート発掘・育成事業	● 実施中	→		
➢ スポーツを通じた国際交流	● 実施中	→		
➢ ジュニアパラアスリート育成支援	● 東京ゆかりジュニアパラアスリートの認定	● ジュニアアスリートの育成強化	→	
気軽にできる運動の普及啓発	● 実施準備	● 実施準備	● 事業開始	→
子供のニーズに対応した効果的な情報発信	● 実施準備	● 実施準備	→	
継続的なスポーツ機会の創出・提供	● 実施準備	● 実施準備	● 事業開始	→



1 重点政策テーマ

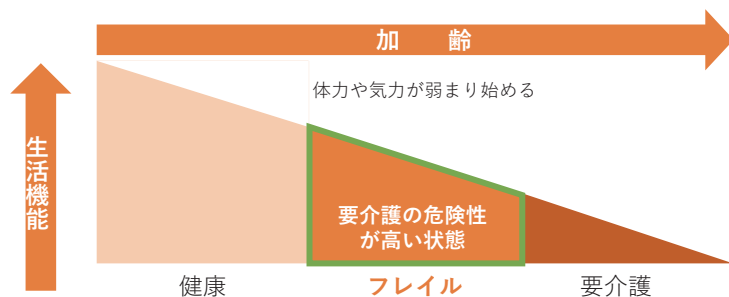
Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

現状と課題 高齢者

- 加齢とともに体力や気力が弱まることにより、**生活機能が低下し、フレイルや要介護**になるリスクが高まる。フレイルを予防するには、「**栄養**」「**体力**」「**社会参加**」が重要である。
- **社会活動に参加した高齢者の約9割**が生きがいを感じており、「**趣味やスポーツに熱中している時**」に生きがいを感じる割合が53.5%。
- 定年退職後の**地域活動等への参加**について、**高齢者の約8割**が希望しているのに対し、実際に社会参加している高齢者は**5割にとどまる**。
- **フレイル予防**の観点でも有効である**身体活動と社会参加**を通じて、**高齢者の健康、生きがいづくり**を進めていく必要がある。

フレイル予防対策

フレイル予防には、身体活動、社会参加が有効

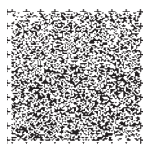


フレイルと要介護状態との関係



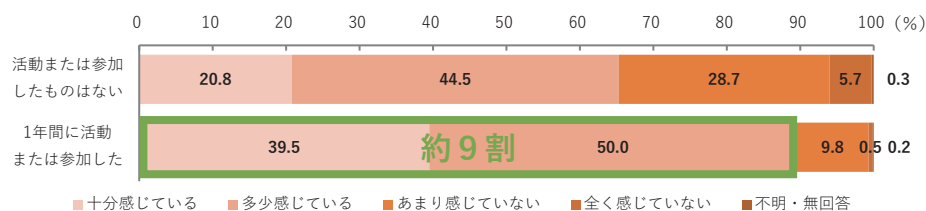
フレイルの予防習慣「3プラス1」

図表出典：「知っておく！からはじめる一介護予防・フレイル予防」（2023年3月、福祉保健局）を基に作成

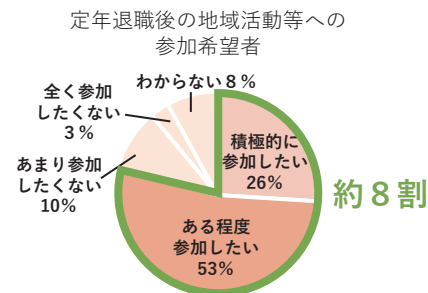


社会参加と生きがい

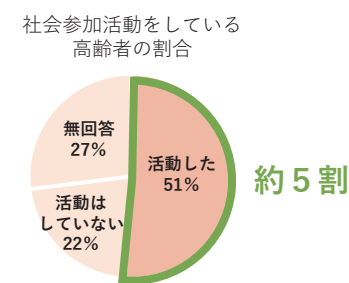
地域活動等への参加を希望する高齢者は約8割
また、社会活動に参加した高齢者の約9割が生きがいを感じている



図表出典：「高齢者の健康に関する調査」（2022年10月、内閣府）



図表出典：「人生100年代における社会参加施策に係る検討のとりまとめ」（2023年2月、福祉保健局）を基に作成



現状と課題

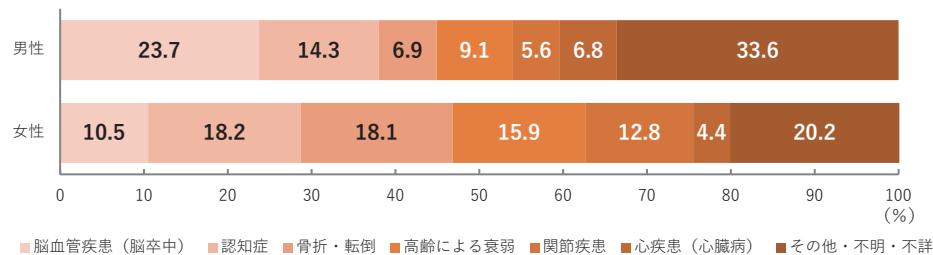
女性

- **女性の運動不足、体力不足等**は、男性に比べ、認知症、骨折・転倒等の健康問題を引き起こしている。生涯にわたって健康に過ごすためには、若年期からの継続的な運動習慣の形成が重要である。
- 女性アスリートは、**女性特有の健康課題**と向き合う必要がある。**女性アスリートの競技力向上**には、アスリートや指導者が**適切な情報**を知り、**トレーニングの質を向上**させることが重要である。
- 国の第3期スポーツ基本計画によると、**スポーツ団体における女性理事の割合**は、ガバナンスコード（NF向け）において**目標値が40%**のところ、令和3年度時点で約23.4%。**性別にかかわらず誰もが活躍できる組織体制づくり**を促進することが重要である。

女性の運動不足等の健康問題

男性に比べ、女性の運動不足・筋力不足等は、関節疾患、認知症、骨折・転倒、といった要介護の主要な原因につながる

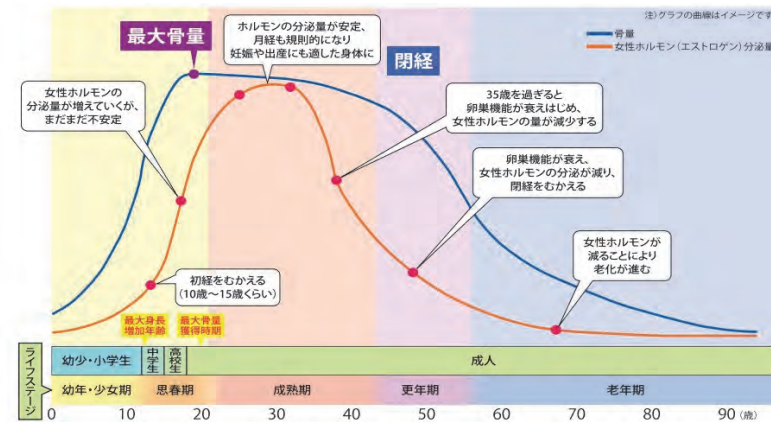
65歳以上の要介護者等の性別にみた介護が必要になった主な原因



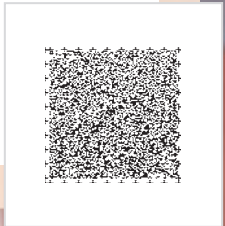
図表出典：「2022（令和4）年 国民生活基礎調査」（2023年7月、厚生労働省）を基に作成

女性のライフステージと身体的特徴

女性のライフステージには女性ホルモンの分泌が関係しており、女性のホルモンの分泌量と骨量は年齢で変化する



図表出典：「女子アスリートのコンディショニングガイド」（2019年3月、オリンピック・パラリンピック準備局）



1 重点政策テーマ

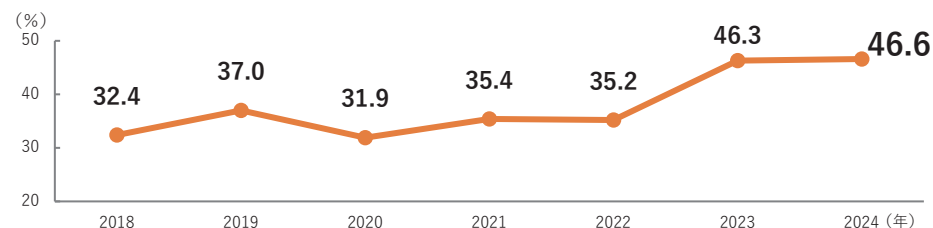
Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

現状と課題 障害者

- 令和6（2024）年の**障害者（18歳以上）のスポーツ実施率**は46.6%で上昇傾向にあるが、都民全体の実施率（63.3%）より低い状況である。**障害者の5割超が、スポーツや運動に「関心がない」「できない」と回答。**
- 「スポーツ・運動の実施に必要な支援」として「障害に合わせた教室・プログラム」（16.0%）、「バリアフリー化」（交通機関やまち：11.6%、体育館などの建物等：9.9%）、「適切な指導者等」（11.3%）等の割合が高い。
- 装具利用者のスポーツ活動には、**用具が高額**であること、**身近に触れる機会が少ない**など様々な課題があり、スポーツを始める障壁になっている。

障害のある人（18歳以上）のスポーツ実施率

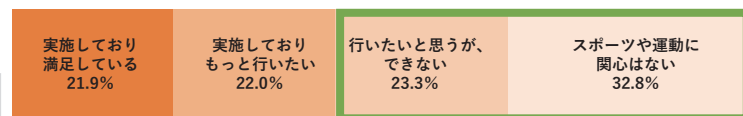
令和6（2024）年の障害者のスポーツ実施率は46.6%



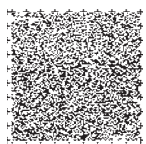
図表出典：「障害者のスポーツに関する意識調査報告書」（生活文化スポーツ局）を基に作成

障害者のスポーツへの取組状況

障害者の5割超が、スポーツや運動に「関心がない」「できない」

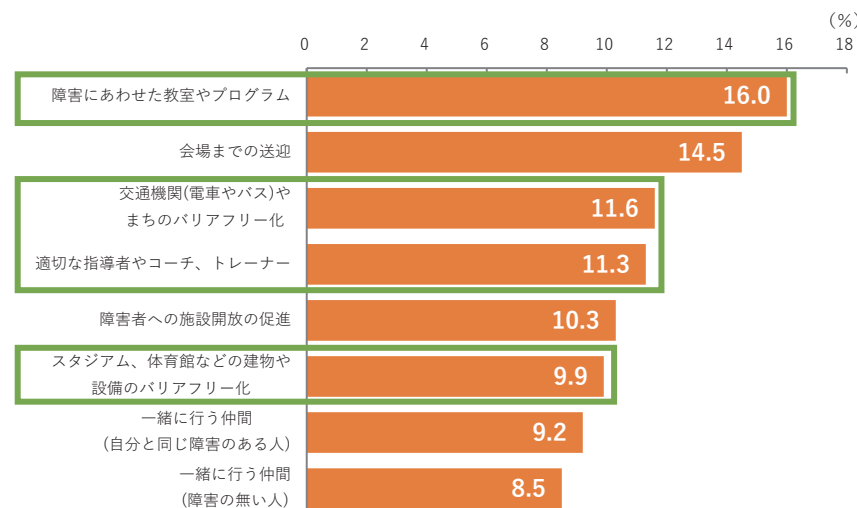


図表出典：「令和6年度 障害者のスポーツに関する意識調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成 ※7～17歳を含む。



スポーツ・運動の実施に必要な支援

「スポーツ・運動の実施に必要な支援」として「障害に合わせた教室・プログラム」「バリアフリー化」等の割合が高い



図表出典：「令和6年度 障害者のスポーツに関する意識調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成 ※7～17歳を含む。

将来の東京の姿

高齢者

女性

障害者

- 障害の有無や年齢、性別、国籍等を問わず、全ての人が分け隔てなくスポーツを楽しみ、互いを理解・尊重しながら共生している

2030年までの政策強化の方向性

高齢者

ねりんピックの東京開催を契機としたシニアスポーツ振興

スポーツを通じた健康維持・増進



- 区市町村や関係団体等との連携や健康状態の見える化などの取組により、健康を維持・増進

スポーツを通じた社会参加や仲間づくりの促進



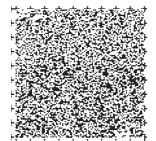
- スポーツや健康づくり推進活動を通して、社会参加や仲間づくり、世代間交流を促進

高齢者が活躍できる機会の創出



- 日頃の成果を発揮するための大会を開催することで、自分らしさを体現する機会を創出

スポーツを通じて、いつまでも元気に、社会とつながり、いきいきと暮らす（スポーツによる生きがいの高揚）



1 重点政策テーマ

Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

今後の取組

高齢者

スポーツを通じた健康維持・増進

地域におけるシニアスポーツを推進

- 関係団体等と連携し、高齢者を対象とする競技会、講習会・講演会等を開催し、**スポーツを通じた健康維持・増進**の取組を推進



スポーツを通じた健康増進

- 高齢者が気軽にスポーツをするきっかけを提供するなど、身近な地域における健康づくりを実施する**区市町村の取組を後押しし、健康状態が見える化する**ことで、健康への関心を高め、**健康増進に貢献**



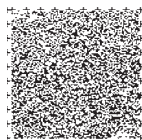
簡単に楽しめるスポーツの普及・推進

- スポーツ・レクリエーションなど、**年齢等を問わず簡単に楽しめるスポーツ**を普及・推進



区市町村におけるデジタル技術の活用を支援

- 区市町村が実施するスポーツ推進事業において、**デジタル技術の活用**を支援するなど、高齢者を含む幅広い世代がスポーツ・運動を楽しむ機会を創出



スポーツを通じた社会参加や仲間づくりの促進

地域やコミュニティ等と つながりを持つきっかけの創出



- 東京都シニア・コミュニティ交流大会を開催し、高齢者のフレイル予防等で広がりを見せつつあるeスポーツを新規種目として追加し、シニアスポーツ振興を一層推進していく

【種目】

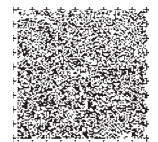
囲碁、将棋、健康マーじゃん、ダンススポーツ、カラオケ、eスポーツ

- 都民スポレクふれあい大会としてスポーツ・レクリエーション活動を実践する場を提供し、世代間のふれあいと、健康・体力づくり、生きがいづくりを促進

多彩なスポーツの取組を通じた 交流機会の提供



- スポーツと多様な分野（音楽、食事など）を掛け合わせたバラエティに富んだ取組を通じて、幅広い層にスポーツを楽しんでもらえるよう検討
- スポーツを実際にみる機会を提供し、多くの観客と興奮や感動を共有する経験を創出
- ボランティア活動や地域スポーツクラブへの参加といったスポーツを通じた社会参加の情報を積極的に発信



1 重点政策テーマ

Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

今後の取組

高齢者

高齢者が活躍できる機会の創出

～ 全国健康福祉祭（ねんりんピック）の東京開催 ～

《大会概要》

○目的・沿革

：全国健康福祉祭（愛称：ねんりんピック）は、スポーツや文化種目の交流大会などを通じ、高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、長寿社会の形成に寄与することを目的として、昭和63（1988）年から開催されている総合スポーツ大会

○主催者

：厚生労働省、開催都道府県（政令指定都市）、
（一財）長寿社会開発センター

○共催者

：スポーツ庁



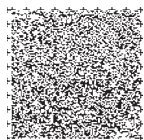
シンボルマーク

○参加資格

：大会当年12月31日時点で60歳以上の日本国籍を持つ人

○東京開催

：令和10（2028）年に東京で初めての開催



ねんりんピックに関する取組

- ねんりんピックに派遣する選手の選考会を兼ねて「シニア健康スポーツフェスティバル」を開催



- 日頃の鍛錬の成果を発揮し、自分らしさを体現できる場の一つとして、ねんりんピックへ東京都選手団を組織・派遣



- 第39回ねんりんピックの気運醸成に向けたシニアスポーツ振興の取組など区市町村が実施するスポーツ振興事業に対して補助



2030年までの政策強化の方向性

女性

女性の多様なニーズを捉えたスポーツへの参画・活躍を推進

年代・ライフステージ・志向などにより変化する女性のニーズや価値観に合わせた働きかけを実施

動機にアプローチ

健康

楽しみ

交流

美容

など



環境にアプローチ

家庭

学校

会社

街中

など



課題にアプローチ

からだ

ところ

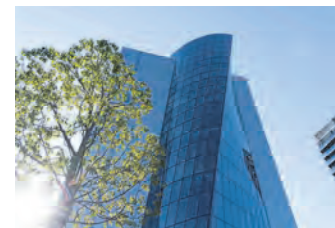
など



組織にアプローチ

スポーツ
関係団体

など

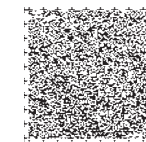


スポーツを通じて、女性一人ひとりが自分らしく健康に、いきいきと輝く

女子アスリートのコンディショニングガイド

アスリートの競技力向上には、**スポーツ医・科学によるサポート**に着目した日々の**コンディション管理**が重要です。本ガイドでは、成長期にある女子アスリートに対して、**女性特有の体調変化や課題**について、**正しい知識の普及と理解を促進し、競技力の向上**を支援するため、マンガ等により内容を分かりやすく紹介しています。

本文は以下の二次元コードからご覧いただけます。



▼ FOCUS COLUMN

1 重点政策テーマ

Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

今後の取組

女性

年代・ライフステージ・志向などにより変化する女性のニーズや価値観に合わせた働きかけを実施

女性向けのスポーツ情報発信

- 女性向けのイベント情報発信や、他分野との連携により、**スポーツへの意識をポジティブに変容**



女性特有の健康課題の予防に資するスポーツの普及・啓発

- 女性それぞれのライフステージで特有の健康課題を予防できるよう日常生活に取り入れられる**スポーツを紹介**



ライフステージに応じたスポーツに親しむ時間・機会の創出

- **無理なく気軽に**取り組めるスポーツの普及、**機会の創出**



多忙な働き盛り世代に向けた取組支援

- 企業の経営層や従業員への働きかけを通じ、女性を含む**働き盛り世代**が仕事をしながらスポーツに親しめる**環境づくり**を後押し



女性アスリートのスポーツ環境整備やスポーツの現場における女性の活躍の機会拡大

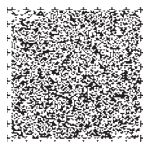
女性アスリート特有の課題に関する情報発信

- コンディション管理やけが予防など、**女性アスリート特有の課題に関する正しい知識**をアスリートや指導者に普及啓発し、**競技力向上**を底上げ



スポーツ関係団体における女性の参画促進

- 女性の**スポーツ関係団体役員等への積極的な任用**を実情に応じて働きかけ



2030年までの政策強化の方向性

障害者

障害の有無にかかわらずパラスポーツを楽しめる取組を推進



身近な地域でスポーツを楽しめる場を創出

- 障害者スポーツセンターにおいて、利用者に障害特性や目的に応じた様々なスポーツ活動の場を提供
- 区市町村におけるスポーツ・福祉・医療等の分野の協働を後押しし、スポーツ活動の場を充実
- スポーツ施設のユニバーサルデザイン化を促進
- 都立特別支援学校や福祉施設等の身近な施設も活用



自分に合ったパラスポーツに出会い、高みを目指せる環境を構築

- パラスポーツを始め、継続できる環境をサポートし、次世代を担うパラアスリートを輩出
- 国際大会等を目指すパラアスリートや支えるスタッフの競技活動を支援



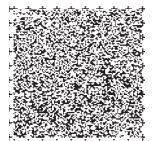
デジタル技術を活用し、より多くの「できる」を体験

- 障害種別や程度に合わせた方法で行うeスポーツの活用により、スポーツに親しみやすい機会を創出
- eスポーツの特徴を生かし、障害のある人とない人の交流を促進
- 民間企業等に障害当事者のニーズをアピール



スポーツを通じた相互理解を促進

- パラスポーツやパラアスリートをより身近に感じられるよう、体験・交流機会を創出
- 障害のある人もない人も一緒に様々なスポーツ観戦を楽しめる環境を構築
- パラリンピックやデフリンピックで高まった気運を未来へ継承



1 重点政策テーマ

Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

今後の取組

障害者

身近な地域でスポーツを楽しめる場を創出

障害者スポーツセンターの運営

- 障害者スポーツセンターにおいて、初心者からアスリートまで、一人ひとりの障害の種類・程度や利用目的に応じた様々な活動の場を提供



東京都障害者総合スポーツセンター

障害当事者のニーズに即した場の提供

- 区市町村においてスポーツ・福祉・医療等様々な関係機関が連携したきめ細かな取組が行われるよう、アドバイザー派遣等により支援



区市町村におけるスポーツ施設的环境整備

- スポーツ施設のユニバーサルデザイン化が進むよう、区市町村の取組を促進
- 人的サポートや備品設置等のソフト面からの工夫による環境整備についても働きかけ

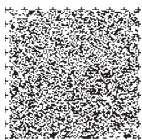


身近な場所における運動習慣の定着を支援

- 通い慣れた福祉施設等から、段階的に地域のスポーツ施設に移行できるよう支援
- 特別支援学校の体育館等を活用したパラスポーツ教室等の充実



福祉施設内での運動プログラムの実施



自分に合ったパラスポーツに出会い、高みを目指せる環境を構築

次世代を担うパラアスリートの発掘や競技人口の裾野拡大



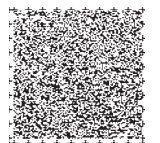
パラスポーツ次世代ホープ発掘事業

- 様々なパラスポーツの体験に加え、自分に合う競技や活動場所等を競技団体に相談できるイベントを開催
- スポーツ用義足や車いすに慣れてもらうための体験会を、理学療法士や義肢装具士等の専門家のサポートの下実施
- スポーツを始めた後も継続しやすいよう、スポーツ用車いすの貸出しを行うほか、定期的な体力測定やトレーニング講習会の実施などによりサポート

パラアスリートの育成・強化



- 国際大会等を目指す東京にゆかりのあるパラアスリート・ジュニアパラアスリートを強化選手として認定し、競技活動を支援
- パラスポーツの競技力向上に必要なコーチやガイドランナー、手話通訳など選手を支えるスタッフの活動環境を整備



1 重点政策テーマ

Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

今後の取組

障害者

デジタル技術を活用し、より多くの「できる」を体験

障害種別や程度に応じた運動機会の創出



通い慣れた施設等でのeスポーツ

- 障害特性ごとに取り組みやすいよう、機器やプログラムを工夫したeスポーツの活用により、通い慣れた施設等の身近な場所で気軽にスポーツ・運動を楽しめる機会を創出

eスポーツ交流会等の実施



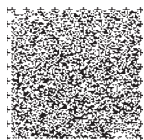
デジタル技術を活用した障害のある人のスポーツ参加促進事業

- 障害の有無や場所にかかわらず一緒に楽しめるeスポーツの特徴を生かし、体験会を通じて障害のある人とない人の交流を促進

企業等に対する当事者ニーズのPR



- 大規模展示会への出展等により、企業等に対し、機器やコンテンツに関する障害当事者のニーズをアピール



スポーツを通じた相互理解を促進

身近な場所でパラスポーツに触れる機会を提供

- 商業施設など多くの人が集まる場所で体験会を実施することにより、気軽にパラスポーツに触れる機会を提供



街なかパラスポット

障害のある人とない人とが交流できる大会の実施

- 障害のある人とない人がパラスポーツの真剣勝負を通じて交流し、相互理解につなげるためのポッチャ大会を開催



BOCCIA BEYOND CUP

誰でも楽しむことができる観戦機会の提供

- 障害の種類や程度によらず、誰もが一緒に様々なスポーツを観戦できる機会を提供



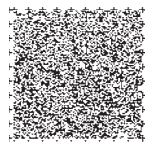
TEAM BEYOND 観戦会

パラスポーツのメモリアルイベントを開催

- 東京2020パラリンピックや東京2025デフリンピックの感動と記憶を想起させパラスポーツへの関心を定着させるため、メモリアルなイベントを開催



パラ競技デモンストレーション



1 重点政策テーマ

Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

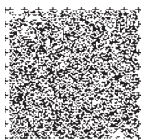
主な年次計画

高齢者

女性

障害者

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
シニアスポーツ振興				
シニアスポーツ振興事業	● 実施中			
東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催	● 大会実施	● 実施種目にeスポーツを追加		
区市町村によるデジタル技術を活用したスポーツ推進事業の実施を支援	● 事業実施	● 事業実施 (補助対象の拡大)		
女性のスポーツ振興				
女性向けのスポーツ情報発信		● 実施準備	● 事業実施	
女性を含む働き盛り世代に向けた取組支援	● 実施中			
女性アスリート特有の課題に関する情報発信	● 実施中			
障害者のスポーツ振興				
身近な場所における運動習慣の定着を支援	● 福祉施設や身近なスポーツ施設等で運動プログラムを実施 ● 特別支援学校でパラスポーツ体験教室等を実施	● 事例集を通じて自治体に取組を普及		
次世代を担うパラアスリートの発掘や競技人口の裾野拡大	● 様々な競技スポーツを体験し相談できる場を提供	● 参加者へのフォローを充実させ競技活動の継続を支援		
デジタル技術を活用した障害種別や程度に応じた運動機会の創出、交流会の実施	● 通い慣れた施設など、身近な場所でのスポーツ・運動の機会を提供	● 新たに地域イベント等を活用した交流の機会を創出		
障害のある人となない人とが交流できる大会の実施	● 真剣勝負を通じ相互理解を深めるボッチャ大会の実施			



在留外国人×防災×スポーツ

在留外国人は、言語や習慣などの違いから日本人と比べて防災知識が乏しいため、発災時でのコミュニケーション等が課題となっています。在留外国人の防災意識を高めるため、**スポーツを活用した防災訓練**を開催した事例があります。訓練では、パン食い競争ならぬ「乾パン食い競争」や、非常用袋に防災グッズを入れるなどしながらリレーをする「防災リレー」などが行われました。こうしたスポーツを通じたイベントで交流することで、心と言葉の壁を乗り越え、**スポーツが人々の理解と絆を深めていく**ことが期待されています。

スポーツを通じた在留外国人との共生

在日スリランカ人が、企画したクリケット大会の会場探しに難航していたところ、日本で暮らす外国人労働者や技能実習生を支援している団体が行政と交渉し、大会の開催を支援した事例もあります。大会は、**在留外国人がスポーツを実施することで、ストレスの緩和や日本人との交流**を図り、**相互理解**の一助にすることを目的に企画されました。スポーツ基本法前文が示す「**世界共通の人類の文化**」としてのスポーツを通じて、相互理解を深めることが重要です。

LGBTQ×スポーツ

東京2020大会では、**LGBTQ**を公表する選手が過去最高となりました。

また、**東京マラソン**では、これまでも大会の運営に当たり、ノンバイナリーに関するアンケートの実施や誰でも更衣室・トイレの設置など、様々な取組を行ってきましたが、多様化するランナーのニーズに応えるため、2025大会から、エントリー時の性別カテゴリーに**ノンバイナリー項目**を新たに追加しました。今後も、全ての人が違いを認め合いながらスポーツを楽しめるよう、様々な視点から取組を見直し、実施していくことが必要です。



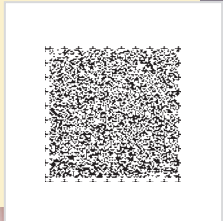
写真提供：福山市



写真提供：共同通信社



TOKYO MARATHON 2025
2025年10月10日開催
©東京マラソン財団
東京マラソン2025 メインビジュアル



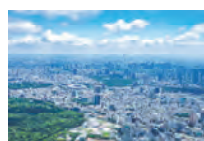
1 重点政策テーマ

Project 3 スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」

現状と課題

- RWC2019により、全国に**経済波及効果**がもたらされたほか、**ラグビー文化の定着**が図られた。また、**東京2020大会**では、大会を通じて、新たな施設が整備されるなど**ハード面が充実**するとともに、**スポーツ実施気運やパラスポーツへの関心の高まり**・大会を支えたボランティアの活躍といった**ソフト面のレガシー**も多く芽生えた。
- **国際スポーツ大会の開催**は、アスリートの活躍が感動や興奮をもたらし、スポーツのすばらしさを広め、**スポーツの振興に寄与**するだけでなく、東京の活性化や都市としてのプレゼンス向上にもつながるなど、**大きな価値をもたらす**ものである。
- 令和7（2025）年には、**東京2025世界陸上と東京2025デフリンピック**、2つの国際スポーツ大会が東京で開催される。スポーツの力で東京の新たな未来を切り開いていくため、東京都は、**両大会を通じて目指す姿を「ビジョン2025」としてまとめ、様々な取組を展開**している。
- 今後も、こうした国際スポーツ大会開催の価値を根付かせ、**都市の更なる発展**につなげるため、「**国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン**」を踏まえ、ガバナンスを確保しつつ、**国際スポーツ大会の開催や、誘致・開催の支援**を行っていくことが重要である。

国際スポーツ大会開催が都市にもたらすもの



都市プレゼンスの向上

大会に向けた多彩な文化プログラムの実施等を通じた都市の魅力発信等



共生社会の実現

障害の有無にかかわらず多様性を認め合う社会の醸成等



ボランティア文化の定着

大会ボランティアの経験等を契機にボランティア文化が定着



©東京マラソン財団

スポーツの感動や興奮の体感・共有 スポーツへの関心喚起

スポーツの感動や興奮の体感等



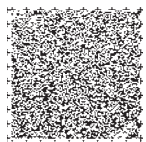
国際感覚の醸成等

子供の国際感覚の涵養等



地域・経済活性化

大会を目的とした訪日外国人客の増加等によりもたらされる経済活性化等



将来の東京の姿

- **スポーツが都市発展の力となり、東京を更なる成熟した都市へと導いている**

2030年までの政策強化の方向性

国際スポーツ大会を盛り上げ、東京に様々な価値を生み出していく

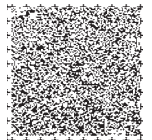
- **東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じてウェルネスの向上や社会変革を推進し、新たなレガシーを創出**
- **東京マラソンを通じて東京の魅力を国内外へ発信し、都市のプレゼンスを一層向上させるとともに、都民に活力をプラス**

多種多様な大会の誘致・開催により、東京のスポーツの力を高めていく

- **誘致・開催支援等の取組を充実させ、様々な国際大会が継続して開催されることで、スポーツを「する・みる・支える・応援する」が日常に溶け込み、スポーツを東京の強みとして定着**
- **国際スポーツ大会の更なる誘致に向けて、東京の開催能力やスポーツ都市・東京の魅力を幅広く発信**

国際スポーツ大会の経験をレガシーとし、スポーツ大会の運営を支援していく

- **今後のスポーツ振興の推進に向け、東京都と政策連携団体等スポーツ関連団体との連携の更なる強化**
- **国際スポーツ大会の開催経験等を、競技団体等が開催する大会に活用し、都民が一層スポーツに触れる機会を提供**



1 重点政策テーマ

Project 3 スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」

今後の取組

国際スポーツ大会を盛り上げ、東京に様々な価値を生み出していく

東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた取組

東京2025世界陸上

- 世界陸上競技選手権大会は、200か国・地域から2,000人以上のトップアスリートが集う陸上競技の世界最高峰の大会で、世界で約10億人が視聴している。
- 東京2025世界陸上を通じて、スポーツを楽しむ機会の創出、東京の魅力発信、子供たちへの参画機会の提供などの取組を進める。



東京2025世界陸上大会ロゴ

大会がもたらすもの



子供たちがスポーツから多くを学び、多様な価値観を育む

東京2025デフリンピック

- デフリンピックは、デフ（きこえない・きこえにくい）アスリートのための国際総合スポーツ競技大会で、手話言語のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴である。
- 東京2025デフリンピックを通じて、あらゆる人が協働した大会運営、情報保障の充実や円滑なコミュニケーションのサポート、共生社会への理解促進などの取組を進める。



東京2025デフリンピック大会エンブレム



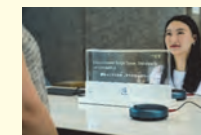
互いの違いを認め、尊重し合う社会づくりに貢献

ビジョン2025の実現に向けた取組

- 両大会を通じて都が目指す姿をまとめた「ビジョン2025」に基づき、様々な取組を展開することで、大会を盛り上げるとともに、大会後のレガシーを創出していく。

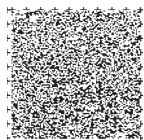


ビジョン2025



ユニバーサルコミュニケーションの促進

など



国際スポーツ大会を盛り上げ、東京に様々な価値を生み出していく

東京マラソンの開催

- 2027年に20回大会を迎える東京マラソンを世界最高水準の大会へと成長させ、東京マラソンのコンセプトである「東京がひとつになる日。」を具現化するよう、国内外のトップランナーと市民ランナー、大会を支えるボランティア等、大会に関わる全ての人々が一体となる大会運営を目指していく。



東京マラソン2025 メインビジュアル



東京マラソン2024

その他の取組

- 東京マラソンのコース沿道におけるパフォーマンスによる応援など、地域の人々が参画したランナー応援イベントを実施
- 東京2020大会で高まったスポーツやウェルネスの気運をレガシーとして継承していけるよう、東京レガシーハーフマラソンを開催
- TOKYO ROKUTAI FESや東京レガシースタジアムなどのイベントを実施し、ランニング人口の裾野拡大のための取組を実施



コース沿道からランナーを応援



東京レガシーハーフマラソン2024フィニッシュ



東京レガシースタジアム

大会がもたらすもの



スポーツから得られる感動を共有する機会の創出により、都民の活力を高める

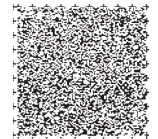


東京の魅力を世界中に発信し、都市のプレゼンス向上に寄与



国内外からの大会参加者による東京の経済活性化

など



1 重点政策テーマ

Project 3 スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」

今後の取組

多種多様な大会の誘致・開催により、東京のスポーツの力を高めていく

国際スポーツ大会の開催支援

- 東京のスポーツの振興及び都市のプレゼンスの一層の向上を図るため、都内で国際スポーツ大会の開催を目指す団体に対し、誘致活動や開催を支援する事業を実施
- 都立スポーツ施設も、東京2020大会のレガシーとして、新たな国際大会の場として活かしていく
- パラスポーツについては、幅広い競技や様々な規模の国際大会が都内で開催できるよう継続して支援し、より多くの都民に観戦機会を提供することによりパラスポーツの振興と共生社会の実現につなげていく



©JAPAN DANCE SPORT FEDERATION

第23回 東京オープン・ダンススポーツ選手権



三井不動産 車いすラグビー SHIBUYA CUP 2024 (国立代々木競技場第二体育館)

国際大会の誘致に向けた海外発信

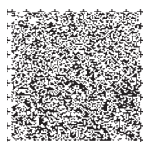
- 国際スポーツ大会の更なる誘致・開催に向けて、IF等のスポーツ関係者に対し、東京の開催能力やスポーツ都市・東京の魅力を幅広く発信
- 国際スポーツ界での東京のプレゼンス維持・向上のため、スポーツアコード等の国際スポーツ会議への参加等を通じ、国際スポーツ関係者への継続した最新情報の発信や意見交換を実施していく
- パンフレットや映像の活用、ウェブコンテンツの充実等により、豊富なスポーツ施設など東京のスポーツ資源、最先端の技術や交通網など大会開催に必要なインフラ、文化や観光など東京の多彩な魅力をPRしていく



スマートシティ&スポーツ サミット2023 (パリ市)



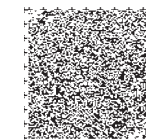
国際スポーツ大会の誘致に向けたPR映像



国際スポーツ大会の経験をレガシーとし、スポーツ大会の運営を支援していく

- 東京都は、これまでの国際スポーツ大会に加え、東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催により、**更なる知見やノウハウを蓄積**していく。
- このうち、東京2025デフリンピックについては、政策連携団体である（公財）東京都スポーツ文化事業団と連携し、**準備・運営に携わる**ことにより、**大会を成功に導いていく**。
- 東京都は、これらのレガシーを活用し、（公財）東京都スポーツ文化事業団と連携・協力しながら、**国際スポーツ大会の準備・運営に支援を必要とする競技団体等に対し、知見や資料の提供などを通じた支援の仕組みを具体化**していく。

国際スポーツ大会の経験をレガシーとしたスポーツ大会の運営支援の仕組み

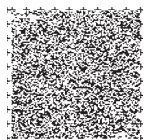


1 重点政策テーマ

Project 3 スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」

主な年次計画

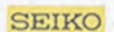
具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた取組	<ul style="list-style-type: none"> 取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 取組の実施 大会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 開催経験等の継承 	→
東京マラソンの開催	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソン2025開催(18回大会) 	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソン2026開催(19回大会) 	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソン2027開催(20回大会) 	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソン2028開催(21回大会)
国際大会の開催支援	<ul style="list-style-type: none"> 国際大会の調査等支援、誘致・開催支援 	→		
パラスポーツの国際大会の開催促進	<ul style="list-style-type: none"> 幅広いパラスポーツの国際大会の開催を支援 	<ul style="list-style-type: none"> 観客数増を図るためのPR支援を実施 	→	
国際スポーツ関係者への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> スポーツアコード等参加、国際スポーツ関係者へのフォローアップ 	→		
海外向けウェブページでの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 国際大会誘致に向けたPR資料の作成・掲載・情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブコンテンツの拡充、情報発信 	→	



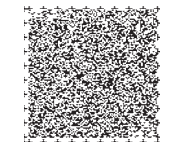


TOKYO
MARATHON
2019

OFFICIAL MARATHON PARTNER



4:45.17
SEIKO



1 重点政策テーマ

Project 4 スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」

現状と課題

- 東京2020大会を通じて、最新の国際水準を満たす都立スポーツ施設の整備や、区市町村など身近なスポーツの場の整備が進み、東京のスポーツインフラはバージョンアップした。
- こうした大会のレガシーを活かし、施設を利用する都民のウェルビーイングを高めていくためには、都立スポーツ施設のスペックを活かしたスポーツでの更なる活用やエンターテインメントなど幅広い体験機会の提供、身近にスポーツを楽しめる環境整備の促進を図ることが重要である。
- 東京2025世界陸上や東京2025デフリンピック開催の機会も捉え、都立18施設をはじめとした都内スポーツ施設のポテンシャルを最大限発揮するとともに、区市町村などの地域資源の活用を促進し、いつでも誰でもスポーツを楽しめる環境を創り上げていく必要がある。

都立スポーツ施設

- 都内に18の都立スポーツ施設を擁し、最新の国際水準を満たす施設を有しているなど、東京のスポーツインフラの中核としての役割を果たしている
- 国際スポーツ大会の競技会場としても活用されており、誰もが使いやすい施設の整備や環境に配慮した設備の導入などが進んでいる



東京アクアティクスセンター



カヌー・スラロームセンター

都立公園内等の運動施設

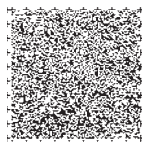
- 城北中央公園などの都立公園や、若洲海浜公園若洲ゴルフリンクスなどの都立海上公園内にも42の運動施設があり、都民のスポーツの場となっている

身近なスポーツの場

- 区市町村立のスポーツ施設は身近なスポーツの場としての役割を担っている

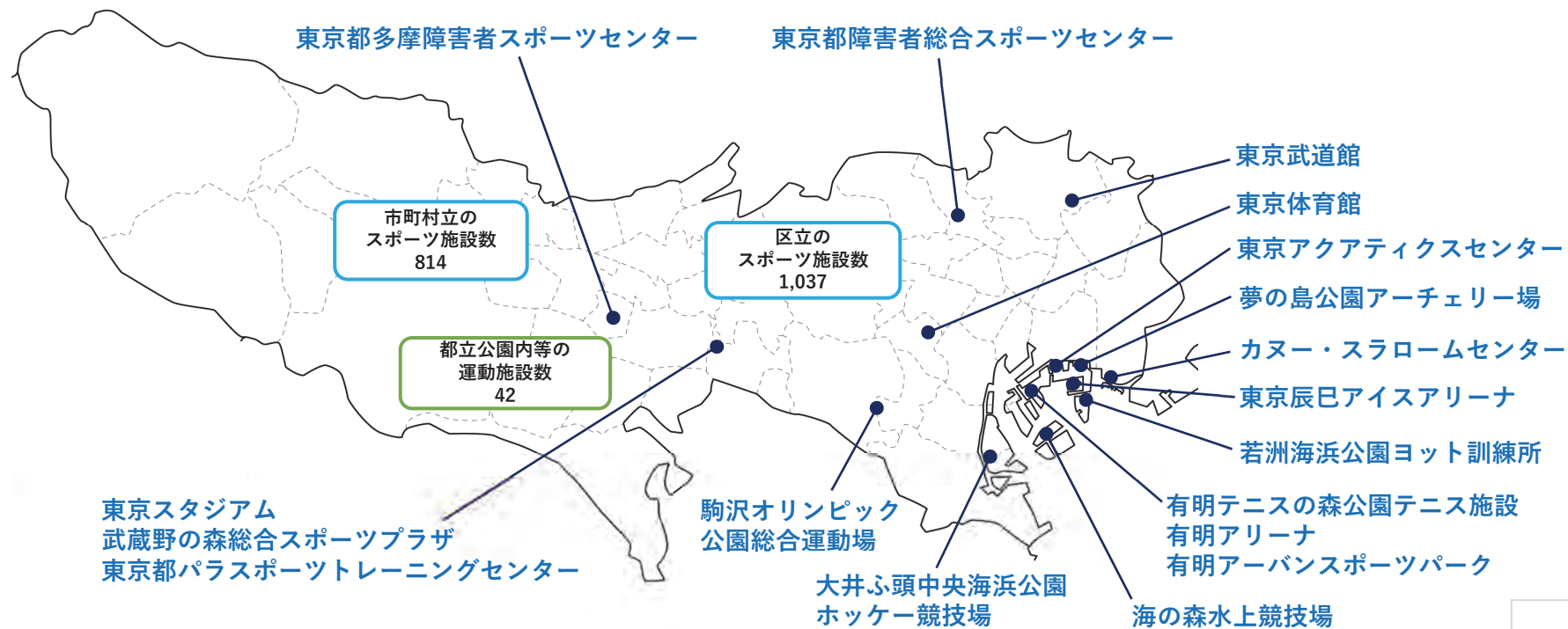
【区立のスポーツ施設数】 1,037

【市町村立のスポーツ施設数】 814



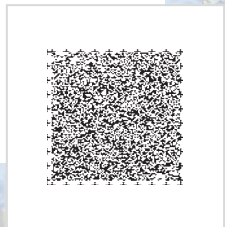
都内のスポーツ施設の現況

大規模大会の会場となる都立スポーツ施設や、身近な区市町村のスポーツ施設など、都内には様々なスポーツの場がある



※青字施設は都立スポーツ施設（令和7年3月時点。整備中の東京辰巳アイスアリーナを含む。）

※区市町村立のスポーツ施設数は、令和5年10月時点



1 重点政策テーマ

Project 4 スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」

将来の東京の姿

- 都立スポーツ施設が、身近にトップレベルの試合に触れることができる**スポーツの拠点**として親しまれている
- 多様なニーズに応え、**新たなスポーツ環境や様々な体験機会を提供し**、都立スポーツ施設が**都民のウェルビーイングの向上**に寄与している
- **誰もがいつまでも、身近にスポーツを楽しむことができる環境**が実現している

2030年までの政策強化の方向性

東京のスポーツインフラの中核を担う施設の強みを発揮

- 東京の**スポーツインフラの中核**を担う存在として、**高水準な施設・設備**を生かした**国際大会や全国大会**などの開催から、**競技力向上や都民の健康づくり、パラスポーツ**を楽しむ場の提供まで、**スポーツを通じた様々な価値を提供**
- 各施設の特性や立地を生かすとともに、令和5（2023）年度から設置している「TOKYOスポーツ施設コンシェルジュ」を発展させ、18施設のネットワーク化によりポテンシャルを最大限発揮し、**スポーツに限らずエンターテインメントやユニークベニューなど幅広い活用を促進**

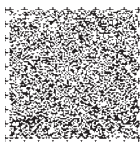
安全・安心・信頼のスポーツ環境を提供

- 「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」や、東京2025デフリンピックを契機に整備を進めた**アクセシビリティ設備のノウハウ**を、今後の大規模改修等にも反映
- 各施設において**手話や「やさしい日本語」の活用を促進し**、利用者との円滑なコミュニケーションを実現
- 年々気温が上昇する中、安心して施設を利用できるよう**暑さ対策**を推進
- **環境配慮**の取組として、設備の**高効率化**や**太陽光発電等の再生可能エネルギー設備、電気自動車等のための充電設備**の導入

身近なスポーツ環境の更なる充実

- これまでの取組成果の検証を踏まえた**区市町村のスポーツ施設整備に対する支援**や都立特別支援学校の活用促進等を通じて、**身近なスポーツ環境の整備を推進**
- 「東京のスポーツ案内サイト」にて、**都内のスポーツ施設の検索や予約ページへの遷移等、利便性を向上**

都立スポーツ施設の取組



今後の取組

都立スポーツ施設の取組

東京のスポーツインフラの中核を担う施設の強みを発揮

施設のスペックを活かしたスポーツでの更なる利用

国際大会や全国大会の競技会場

- 各施設は高水準の設備を有し、国際大会や全国大会の競技会場として利用されており、**都民が身近にトップレベルの試合に触れることができる場を提供していく**



東京2025デフリンピック
大会エンブレム

(大会の例)

- 国際大会：**
デフリンピック、世界選手権、アジア選手権等
- 国内大会：**
日本選手権、全国高校選手権等

東京2020大会のレガシーを継承した施設

- 東京2020大会のレガシーを継承した有明アーバンスポーツパークと都立初の通年アイスリンク施設である東京辰巳アイスアリーナを開業し、**若者に人気のある都市型スポーツや氷上スポーツに親しめる場を創出していく**



有明アーバンスポーツパーク



東京辰巳アイスアリーナ
※令和7(2025)年9月開業予定

競技力強化・向上の拠点

- 競技大会等での活用のほか、トップレベル競技者が集中的にトレーニングを行うための活動拠点としてスポーツ庁から2施設がナショナルトレーニングセンターに指定されており、**国内のアスリートの強化・育成に貢献していく**



海の森水上競技場



カヌー・スラロームセンター

パラスポーツ振興の拠点

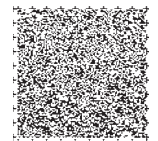
- 都内2か所の障害者スポーツセンターを運営し、**障害のある人が気軽にスポーツを楽しめる環境を提供していく**ほか、東京都パラスポーツトレーニングセンターを運営し、**パラスポーツの競技力向上・普及振興の場を提供していく**



東京都障害者総合
スポーツセンター



東京都パラスポーツ
トレーニングセンター



1 重点政策テーマ

Project 4 スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」

今後の取組

都立スポーツ施設の取組

東京のスポーツインフラの中核を担う施設の強みを発揮

ユニークベニューなどの多目的利用

- スポーツ利用だけでなく、誰もが親しめる**新しいプログラムの展開**やユニークベニューとしての利用など施設の**多目的な活用**を推進



カヌスラパーク（カヌー・スラロームセンター）

- 誰もが楽しめる遊具等をオープンスペースに設置した、期間限定のレジャー・スポットを指定管理者が展開
- 来場者に水上アクティビティへの関心を持ってもらい、施設利用のきっかけづくりに



バーベキュー
（海の森水上競技場）



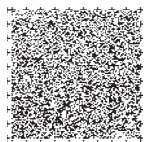
子供ヨット体験
（東京アクアティクスセンター）



ファッションショー
（夢の島公園アーチェリー場）



消防・水難救助訓練
（海の森水上競技場／
カヌー・スラロームセンター）



18施設の一體的なプロモーション

- TOKYOスポーツ施設コンシェルジュ Ver 2.0
 - 都立スポーツ施設の施設利用に関する**総合的な相談窓口**である「コンシェルジュ」を設置
 - **企業などへのアプローチ**によりコンシェルジュの**発信力を強化**し、ニーズを捉えて施設と利用者を**マッチング**



施設を活用した多様なコンテンツの提供

- **スポーツ中継の配信**
 - 各施設での**試合等を配信**し、都民に提供
- **人気コンテンツとのコラボ企画の展開**
 - 各施設を活用した**謎解きイベント**等を展開



今後の取組

都立スポーツ施設の取組

安全・安心・信頼のスポーツ環境を提供

ハード・ソフト両面のバリアフリー化を推進

- 誰もが利用しやすいスポーツ環境を整備・提供し、都民の健康づくりに貢献

- ・ 「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」(※)や、東京2025デフリンピックを契機に整備を進めた**アクセシビリティ設備のノウハウ**を、今後の大規模改修等にも反映



アクセシビリティ設備の例
(光警報装置)

※ Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン：東京2020大会が、障害の有無にかかわらず、全ての人にとって参加しやすい大会となるよう、ハード・ソフト両面でのバリアフリー化の推進に向け、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が策定したガイドライン

- 18施設のネットワークにより、ソフト面のバリアフリー化を推進
 - ・ 各施設管理者間で連携し、手話や「やさしい日本語」等を共同で学習し、誰もが暮らしやすい社会に向けた取組を推進

暑さ対策

- 各施設における熱中症対策の推進
 - ・ 暑さ指数計等の暑さ対策備品を各施設へ配備するなど、熱中症対策を徹底



暑さ対策備品の例
(左：暑さ指数計、右：注意喚起パネル)

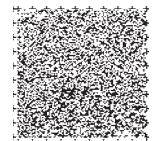
- クーリングシェルター等としての役割
 - ・ 自治体の要請等に基づき、クーリングシェルター(指定暑熱避難施設)やTOKYOクールシェアスポット(涼しさを共有するための場所)として、熱中症対策を目的とした適切な休憩場所を提供

環境配慮の取組

- 環境に配慮した技術を導入することで環境負荷の低減に貢献
 - ・ 改修の機会を捉えた設備の高効率化や太陽光発電等の再生可能エネルギー設備、電気自動車等のための充電設備を導入し、環境負荷の低減に貢献



東京アクアティクスセンターに設置された太陽光発電パネル



1 重点政策テーマ

Project 4 スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」

今後の取組

身近なスポーツ環境の更なる充実

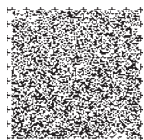
区市町村等のスポーツ施設の整備支援

- 区市町村の**スポーツ環境の拡充**に向け、**ユニバーサルデザイン化**の推進、暑さ対策、学校施設の市民開放などの**施設の改修整備**に係る取組を支援
- **デジタル技術等**を活用し、従来スポーツの場として使用されていない場所や空間を**新たなスポーツの場**として創出



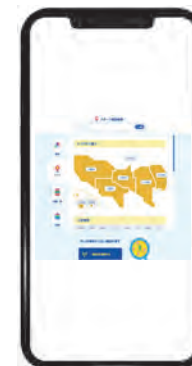
都立特別支援学校活用促進事業

- 障害のある人や障害者スポーツ団体等が、身近な地域でスポーツ活動を行えるよう、**都立特別支援学校の体育施設**を地域のパラスポーツの拠点の一つと位置付け、学校教育活動に支障のない範囲で**開放し、活用を促進**



スポーツ施設検索の利便性を向上

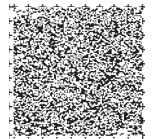
- 公民含めた3,000を超える都内のスポーツ施設情報をまとめた「**東京のスポーツ案内サイト SPOPITA【スポピタ】**」について、**施設検索**や**予約ページへの遷移**等、**利用者の利便性を向上**
- 民間企業等と連携し、スポーツ施設の情報を誰もが容易に利用できる「**オープンデータ**」として積極的に公開し、**データの利活用を促進**



競技種目・場所・最寄り駅などから、施設を検索可能

主な年次計画

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
都立スポーツ施設の管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 実施準備  	<ul style="list-style-type: none"> 大井ふ頭中央海浜公園 ホッケー競技場外2施設 の指定管理者選定 	<ul style="list-style-type: none"> 実施準備  	<ul style="list-style-type: none"> 東京体育館外10施設の 指定管理者選定
都立スポーツ施設の開業	<ul style="list-style-type: none"> 有明アーバンスポーツ パークの開業 	<ul style="list-style-type: none"> 東京辰巳アイスアリー ナの開業 		
18施設の一体的なプロモーション	<ul style="list-style-type: none"> 「TOKYOスポーツ施設 コンシェルジュ」の実 施 	<ul style="list-style-type: none"> 「TOKYOスポーツ施設コ ンシェルジュ Ver 2.0」の 展開 		
施設を活用した多様なコンテンツの提供	<ul style="list-style-type: none"> 実施準備  	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ中継の配信 人気コンテンツとのコラ ボ企画の展開 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツの企画・提 供 	
大規模改修等の機会を捉えたバリアフリー化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 駒沢オリンピック公園 総合運動場体育館の改 修工事 デフリンピック競技会 場（都立）の光警報装 置等改修工事 	<ul style="list-style-type: none"> デフリンピック競技会 場（都立）の光警報装 置等改修工事 	<ul style="list-style-type: none"> 実施準備  	<ul style="list-style-type: none"> 東京武道館の改修工事
区市町村等のスポーツ施設の整備支援	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施 			



1 重点政策テーマ

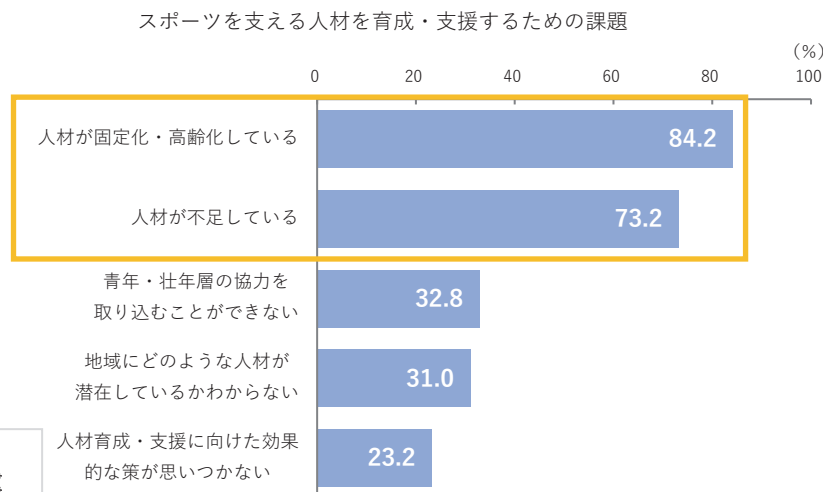
Project 5 スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」

現状と課題

- 地域のスポーツを支える人材は固定化・高齢化し、多くの地域で担い手の確保に課題を抱えている。
- 人口減少や部活動の地域連携・地域移行の進展など、地域スポーツを取り巻く環境が変化している。
- ボランティアが活動を継続・拡大していくため、募集情報や機会の提供等に向けた取組を推進するとともに、活動意欲の高いボランティアには、より活動の深化を促していくことが重要である。
- 新たな担い手の確保やボランティアの一層の活躍、スポーツ関係団体の体制強化等につながる取組を展開し、持続可能な地域スポーツの体制を整備する必要がある。

地域ではスポーツを支える人材が不足している

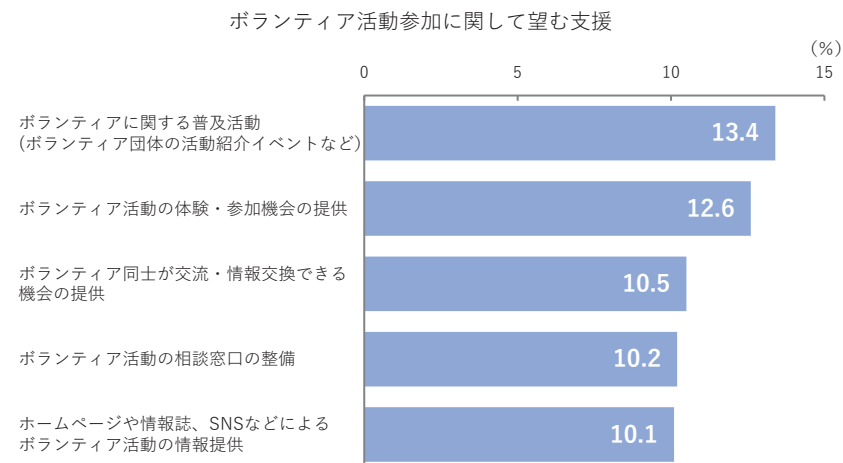
多くの地域で、スポーツを支える人材の高齢化や不足を課題と感じている



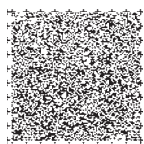
※全国の自治体に対する調査
 図表出典：「令和4年度 スポーツ行政に関する実態調査報告」（2023年8月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング）を基に作成

ボランティア活動を継続・充実する環境整備が課題

多くのボランティアは、活動情報や機会、交流の場の提供を求めている



図表出典：「都民のボランティア活動等に関する実態調査」（2025年1月、生活文化スポーツ局）を基に作成



将来の東京の姿

- 住み慣れた地域で、好きなスポーツをいつまでも続けられる
- 地域にある多くの人や資源で支えられるスポーツ環境が整備されている

2030年までの政策強化の方向性

新たな担い手の確保により、持続可能な地域のスポーツ振興を推進

- 人口減少等地域におけるスポーツを取り巻く環境の変化を見据え、「地域のスポーツ振興に向けた関係者会議」を設置し、地域でのスポーツが続けられるような環境の整備に向け、新たな担い手の確保や団体の連携強化等を議論
- 地域資源の活用に向け、区市町村への様々な支援を展開

ボランティアの活躍機会を拡大し、担い手の確保につなげる

- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じて、東京ボランティアレガシーネットワーク（VLN）及びTOKYO 障スポ&サポートの活用を促進し、東京2020大会で高まったボランティア活動気運を更に進展
- ボランティアの活動継続・拡大に向けたボランティアイベントを開催
- 活動意欲の高いボランティアが活動を深化させていけるよう、情報発信等の取組を推進

地域における指導者の確保・育成やスポーツ関係団体の組織基盤強化等

- 地域で活動するスポーツ関係の指導者を確保・育成
- 都内の競技団体や地区体育・スポーツ協会、地域スポーツクラブ等に対し、研修会の開催支援や専門家相談等を実施し、団体の運営力を向上



1 重点政策テーマ

Project 5 スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」

今後の取組

新たな担い手の確保により、持続可能な地域のスポーツ振興を推進

- 持続可能な地域におけるスポーツ環境を整備するため、地域の実情に応じた**新たな担い手の確保**や**スポーツ関係団体との連携**について、新設する**会議**において議論
- 会議には**スポーツ団体関係者**をはじめ様々な立場から意見を募り、**人材・場所の確保策**や**連携策**を多角的に議論

目指す将来像

- 子供たちが希望するスポーツに取り組んでいる
- 競技レベルや身体能力に合わせた指導を受けている
- 身近な場所でスポーツを楽しむことができる

新たな担い手の充実

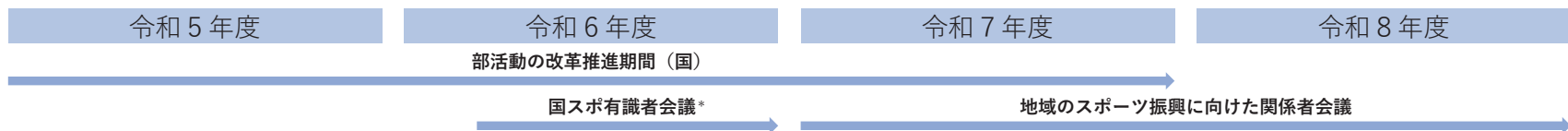
以下のような人材を地域スポーツで積極的に活用

- 民間指導者
- プロスポーツチーム選手・指導者
- 大学・企業等
- ボランティア

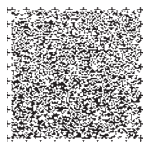
連携・支援に向けた方向性

- 指導者資格の取得等に向けた支援
- 人材が適材適所で活躍できる仕組み
- 事業スキームの確立に向けた助言や支援
- 身近な場所でできるスポーツなど、**情報発信の手法**
- ボランティア活動の拡大や深化につながる機会創出

スケジュール



* J S P Oが設置する「今後の国民スポーツ大会の在り方を考える有識者会議」



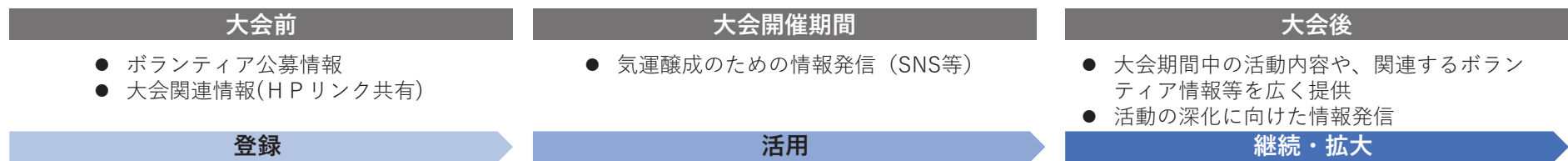
INTEER MARATHON 20

第2編
▼
第1章
目標達成に向けた施策展開
▼
1 重点政策テーマ

ボランティアの活躍機会を拡大し、担い手の確保につなげる

- 東京2020大会を契機に、ボランティア活動への気運が大きく高まった
- 気運の高まりを捉え、活動の継続・拡大につながるよう、東京ボランティアレガシーネットワーク（VLN）やTOKYO 障スポ&サポート（S&S）により、多彩な情報・活動フィールドを提供
- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じて、VLNやS&Sの活用を一層促進

VLNで東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの情報発信



両大会のボランティアにVLNやS&Sへの登録を促すとともに、活用促進につなげる

ボランティアイベント等を通じた気運の維持・裾野の拡大

東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック

総勢6,000人のボランティアが活躍予定

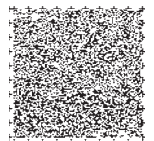
- 東京2020大会を通じて広がったボランティア文化を、両大会で継承・発展

ボランティアイベント等

両大会の振り返りなど、今後の活動につながる企画を用意

- ボランティア同士の交流会 等

- 両大会のボランティアが活動を継続・拡大できる仕掛けにより、一人ひとりが支え合う社会づくりが更に進展
- 都が実施するスポーツイベント等での更なる活動機会の確保を図る



1 重点政策テーマ

Project 5 スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」

今後の取組

- 地域における**指導者**や**スポーツ関係団体等**の活動を強化するため、**人材確保・育成**や**組織基盤強化等**の取組を実施

人材確保・育成

指導者確保に向けた取組



- 地域の日常的なスポーツ活動の場である**地域スポーツクラブ等**に対し、**指導者等の資格取得を支援**

ボランティアの活動深化に向けた取組

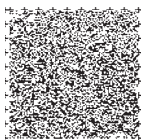


- 東京2020大会、東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック等で活躍したボランティアを対象に、**審判員等競技資格取得に向けた情報を発信し、地域スポーツを支える人材の掘り起こし**を実施

パラスポーツセミナーの開催



- **スポーツ推進委員**などのスポーツ分野に加え、理学療法士・作業療法士など**医療福祉関係者等**も対象にセミナーを開催し、**地域のパラスポーツを支える人材の育成**を推進



スポーツ関係団体の組織基盤強化等

競技団体等の基盤強化



- 都内で活動する**競技団体**及び**地区体育・スポーツ協会**における運営力の向上を図るため、**研修会実施・HP改修のための支援**や、**法人格の取得に向けた専門家相談等**、**団体の組織基盤強化**に向けた活動を支援

地域スポーツクラブの支援

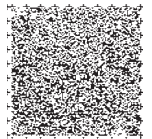


- 地域の日常的なスポーツの場として都民の誰もが参加できる**地域スポーツクラブ**が安定して活動できるよう支援
- 「**東京都地域スポーツクラブサポートネット**」において、**地域スポーツクラブ**の情報を発信
- 「**総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度**」の普及啓発・理解促進及び**登録クラブ**の活用を促進

パラスポーツ団体の マッチングプラットフォーム構築



- **企業のノウハウ等**と**競技団体等の課題やニーズ**を**マッチング**する**プラットフォーム**により、**パラスポーツへの企業の参画**と**競技団体の基盤強化**を促進

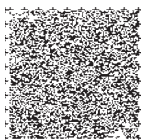


1 重点政策テーマ

Project 5 スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」

主な年次計画

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
地域のスポーツ振興に向けた関係者会議	● 実施準備	● 事業開始	→	
スポーツイベントにおけるボランティア活動機会の提供	● ボランティア活動機会の提供	→		
ボランティア気運の維持・裾野の拡大	● ボランティア気運の維持・裾野の拡大	→		
指導者資格等取得支援事業	● 実施準備	● 事業開始	→	
パラスポーツセミナーの開催	● 区市町村職員・教職員・スポーツ推進委員・医療福祉関係者等、対象ごとにセミナーを開催	→		
競技団体等の基盤強化	● 実施中	→		
地域スポーツクラブの支援	● 実施中	→		
パラスポーツ団体のマッチングプラットフォーム構築	● ピッチコンテスト実施	● スタートアップとの連携によりプラットフォーム構築（試行）	● 事業効果の検証、プラットフォーム改善・運用	→



東京ボランティアレガシーネットワーク (VLN) / TOKYO 障スポ&サポート (S&S)

東京ボランティアレガシーネットワーク (VLN) は、東京2020大会をきっかけにオープンした東京都の公式ボランティアポータルサイトであり、東京都と（公財）東京都つながり創生財団が運営しています。スポーツをはじめ多彩なボランティア情報の掲載等を通じて、一人ひとりに合ったボランティア活動への参加につなげていきます。

TOKYO 障スポ&サポート (S&S) は、東京2020パラリンピックを契機に高まったパラスポーツを支える活動の気運を捉え開設した、障害者スポーツボランティア情報のポータルサイトです。ボランティアをしたい人と募集团体とのマッチングのほか、E-learning講座動画など学びになる情報等を提供し、パラスポーツを支える人の活動機会の充実に向けた支援を行っています。



スポーツ推進委員/パラスポーツ指導員

スポーツ推進委員とは、地域のスポーツ推進を担う非常勤の公務員であり、都内では、1,474人（令和6（2023）年10月現在）が区市町村から委嘱されています。事業の企画・立案や運営のほか、地域住民・行政・スポーツ団体の間の円滑な連携の調整などを行い、地域スポーツの中核的役割を担うことが期待されています。

パラスポーツ指導員とは、国内のパラスポーツの普及と発展を目指して、（公財）日本パラスポーツ協会が公認する資格を有する指導者です。初級・中級・上級の3つの資格があり、例えば、初級の指導員は、健康や安全管理に配慮した指導を行い、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担うなど、それぞれの資格が各役割を担い、パラスポーツを支えています。



東京都地域スポーツ支援研修会



リ・スタート研修会

